

「馬鹿バズーカ」

—三稿—

2026/7/7

脚本 太郎

〈人物表〉

木原 晴人

(70)

研究者。知識人

春野 紡

(70)

知識人

1. 某国・都市部（夜）

色は白で統一され、大きさも形も画一的な建物ばかり並んでいる。

人はほとんど歩いていない。

中央に唯一他より巨大なビル。矢のような形。

矢の先端は平らで、駐機場がある。矢印型の無人戦闘機が停まっている。

戦闘機、発進する。

2. 某国・スラム（夜）

空中には戦闘機。

逃げ惑う人々。

戦闘機の腹部が開き、巨大な円筒形の馬鹿バズーカが現れる。中央には、脳味噌の絵の上に禁止マークが描かれている。

馬鹿バズーカ、機体から離脱し、地上へ落ちていく。爆発音。

× × ×

その場で立ち尽くし、呆然とする人々。生きているがまったく動かない。

3. 孤島・廃墟（夜）

広いホールのような場所。電気もついていない。老人たちが焚火を囲っている。

一人の老人、木原晴人（70）、何かを語っている。周りの人々は神妙そうに頷きながら聞いている。

扉が開け放たれ、**装甲服を着て近未来風のライフル**を構えた**兵士たち**が入ってくる。

左側戦闘の兵士、へたくそなネイティブぶった英語で、

兵士1「ライトサイドクリアッ」

右側戦闘の兵士、へたくそなネイティブぶった英語で、

兵士2「レフトサイドクリアッ」

木原 「逆だろ」

後ろからのんびりと歩いてくる春野紡（70）
ざわめき。

春野 「おそろいようすな」

木原 「何事ですか」

春野 「処刑ですよ」

ざわめきが大きくなる。

木原 「は？」

春野 「最高賢脳会議の結果、あなたがたの有害図書指定が決定しました。よってここにいる全員を焚書にします」

木原 「馬鹿な。どこまで迷走すれば気が済むのですか？ 一体どんな理由で我々が焼かれなければならないのですか」

春野、怒りに顔を歪めて、

春野 「役に立たねえからだよお！」

老人たちを指さす。

春野 「レジャーだの趣味だの、旧世界のインターネット掲示板のアーカイブだの社会の役に立たないような無駄な知識ばかり頭に詰め込んだ暇人どもが」

木原 「書物に貴賤はない」

春野 「あるでしょう考えても！ お前らが喚き散らすゴミみたいな情報が人心を惑わすことが予想されんの！」

木原、呆れた様子で溜息をつく。

木原 「だとしても、あなたたち、やっていることが本国の愚民連合と同じですよ」

春野 「いや違うよ。連中は社会を原始化するためにあらゆる知識のアーカイブを破壊し、我々知識人まで虐殺したが」

春野、自分の頭に人差し指を当て、

春野 「我々は、人類の遺産を守るために、無駄な情報をパージし、来たるべき愚との最終決戦のために知の最適化を図っているのだ」

不安げな顔の老人たち。

木原 「不要な知などありませんよ」

老人たち、勇気づけられたような表情になる。

春野、咳払いして、

春野 「時に木原さん。あなたは博士号を取得していましたよね？ 研究テーマは何でしたかな？」

木原、厳かに頷いて、

木原 「……鼻くそを指で飛ばす際の最適なフォームと形状について」

春野、前のめりになって木原を指さし、

春野 「絶対いらねえだろオ！」

木原 「いるよ。面白いよ。あなたも一緒に学ぼうよ」

春野 「学ばないよそれは学問じゃなくて子どもの悪ふざけだよ」

木原 「必要な知識なんてないんだ」

春野 「あなた筆頭だよ」

木原 「だとしても、別に殺す必要はないでしょう」

春野、神妙な顔に戻って、

春野 「事の重大さを分かっているいな」

春野、右手を上げる。

兵士たちが一人の老人を掃射。

悲鳴が沸く。

老人が倒れる。

木原 「何をするんです？」

春野 「処刑と言ったでしょう。アンタが馬鹿発言をするたびに

一人ずつ射殺する。覚悟して喋れよ」

木原 「彼らに手を出すな。やるなら私をやれ」

春野 「鼻くそ飛ばす研究してる奴がヒロイックな台詞吐くな」

春野、人差し指を立て、

春野 「愚民連合が開発した新兵器をご存じですか？」

木原 「世情には疎くて」

春野 「鼻くそのことしか考えてなさそうですもんね」

木原 「はい」

春野 「はいじゃないよ。……『馬鹿バズーカ』。着弾した半径

10キロ圏内の人間の肉体を傷つけることなく、脳細胞を大幅に破壊する」

木原 「やっぱ」

春野 「これに対抗するためにも我々は団結し、有用な知を結集して愚者共に立ち向かわなければならぬのだ。無能に

構っている暇はない」

木原 「その気になれば50メートルは飛ばせる自信がある、と

言っても同じことを言いますか？」

春野 「ちょ一回鼻くその話やめてもらえる？」

春野、木原に人差し指を突き付ける。

春野 「私が言いたいこと、分かりますか？」

木原 「ちなみに春野さん」

木原、春野の人差し指を指さす。

木原 「その爪の形状じゃあまり遠くまで飛びませんよ？」

春野、苛立ちに顔を歪め、

春野 「は？」

木原 「……なくそ」

春野、怒りが限界を迎え、

春野 「テェッ」

兵士たち、木原にアサルトライフルを掃射。

木原、呻き声を上げて崩れ落ちる。

老人たちの悲鳴。

老人たち、倒れた木原に駆け寄る。

春野、木原を見下ろして鼻を鳴らす。

木原 「春野さん。あなた自身が、今、人類の知にとどめを刺し

ましたよ」

春野 「何？」

木原 「私のバイタル反応が消失した途端、本国にこの島の座標

を送信する仕掛けになっている」

ざわめきが起こる。

春野、愕然として、

春野 「馬鹿な！ 何故そんなことを」

木原 「私はあなたのように夢見がちじゃない。もう手遅れなん

ですよこの世界は。伝道に失敗してこんな孤島に追い込

まれ、」

木原、吐血。

木原 「そこですらあなたたちのようなのが台頭するんじゃ、知

に未来はない。みんな死のう」

春野、他の人々と一緒にガタガタと震えている。

4. 孤島・上空（夜）

雲を切り裂いて、矢印型の戦闘機が出現。
戦闘機の腹部が開き、巨大な円筒形の馬鹿バズーカ
が現れる。

5. 孤島・廃墟（夜）

狼狽してパニックに陥っている人々。
死にかけの木原、突如笑い声を上げる。
「何だ？ 狂ったか？」
「なんてね」
「は？」
「安心しなさい。わたしが今から、無駄な知などな
いということ……」
木原、自らの鼻に指を入れる。

6. 孤島・上空（夜）

馬鹿バズーカ、機体から離脱し、孤島へ飛んでいく。

7. 孤島・廃墟（夜）

木原、鼻に指を入れたまま死んでいる。
春野 「何だこいつ」

終